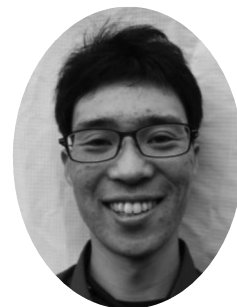


「Iターン就農者のモデルとなれるように」



鷹野 友紀 (28歳) 新規参入
(内子町)

1 就農の動機・理由

実家で趣味として家庭菜園や果樹栽培をしていたこともあり、幼い頃から農業には関心があった。祖母からは次男は家を出るものと言われ、学生の頃から就農を意識していた。大学在学中に東京都池袋で行われた新農業人フェアに参加し、内子町の話聞くなかで魅力に惹きつけられ、インターン後に就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (2016年)	現在の経営 (2019年)	将来の経営 (2023年)
労働力	男 1人(本人)	男 1人(本人)	男 1人(本人) 臨時雇用 3人
経営耕地	畑 58a 計 58a	畑 22a 樹園地 208a 計 230a	畑 22a 樹園地 278a 計 300a
経営内容	カボチャ 30a 休耕 20a	キウイ 58a ユズ 90a アーモンド・ ピワ・イチジク 82a カボチャ・ アスパラガス 22a	キウイ 80a ユズ 120a アーモンド・ ピワ・イチジク 78a カボチャ・ アスパラガス 22a

○農業用施設

倉庫 (100 m²) 1棟

キウイ棚 58a

○主要農業機械

管理機 1台
運搬車 1台
動力噴霧機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 神奈川県藤沢市
職歴 なし
就農研修歴

(有)エコファームうちこ (2年間)

就農年月 2016年7月

(2) 就農時の思い

見ず知らずの場所での農業には不安もあったが、内子町で農業経営を成功させてやるという思いで就農した。また、自分がIターン就農者としてのモデル事例となり、農業の醍醐味を町外に発信し、地域の農業を盛り上げていきたいと思っていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

就農前に2年間(有)エコファームうちこでモモやブドウ、キウイ等の果樹の栽培技術を学んだ。

地域独自の栽培技術は地元の篤農家のところを訪問して勉強したり、青年農業者組織の会員に話を聞いたりして技術を習得した。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資資金（経営開始型）を活用し、初期整備を行った。

キウイフルーツの栽培に必要な棚は、青年等就農資金を活用し整備を行った。

(3) 農地・住宅の確保

町営の新規就農者研修滞在施設を利用して移住したが、2年後に就農する時には町の紹介により住宅を借りた。

農地も町の支援もあり就農時に必要な農地を確保することができた。

(4) その他苦労したこと

当初は、キウイフルーツ栽培に適した園地が見つからず、当面は野菜栽培をすることとなった。しかし、野菜の栽培に関するノウハウがないことから、栽培しながら技術を学びつつ、分からない点は地域の篤農家や青年農業者組織の会員から学んだ。

5 農業経営の特徴

現在はキウイフルーツやユズなどの果樹を中心にカボチャやアスパラガスの野菜も栽培している。繁忙期をずらすことによる労働の分散と継続的な収入の確保を意識し、計画的に経営に取り組んでいる。主に農産物は農産物直売所や学校給食に出荷している。今後、生産量が増えればJAや加工業者への出荷も検討したい。

6 これからの夢

I ターン就農者のモデルとなって地域の農業の活性化とともに、自分の仲間となる若い担い手を増やしていきたい。

現在まで借り受けた土地は、大半が耕作放棄地で一から耕し農地へと転換を行ってきた。地域からも農地の守り手として期待されており、今後も地域の耕作放棄地の解消にも努めていきたい。

7 成功したキーポイント

人のつながりから使わなくなった機械や農地を譲り受けることができ、資金の過剰支出を抑えられたとともに規模の拡大がスムーズにできたこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は自分でやった分だけ、成果がでるやりがいのある仕事。仕事の管理を自分で行うため、ある程度自由もきくが責任も増す。地域に密着した職業であり、周囲の方との良好な関係作りが大切で、日頃から農業以外でのコミュニケーションが重要。

○ 指導機関からのひとこと

鷹野さんは持ち前のコミュニケーション能力で地域の中にすぐに溶け込み、地元の方から信頼される農業者となっています。また、内子町青年農業者協議会では役員として積極的に活動しており、仲間づくり、自己研鑽に意欲的に取り組まれています。

今後の更なる経営の発展はもちろんのこと、将来の地域リーダーとして活躍することを期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室

大洲農業指導班

電話番号 0893-24-4125



カボチャの選別を行う鷹野さん